

木沢村の板碑

—— 考古班（徳島考古学研究グループ） ——

岡山真知子*¹ 小林 勝美*² 三宅 良明*³

1. はじめに

木沢村の板碑は、『木沢村誌』（木沢村誌編集委員会、1976年）に紹介されている。今回の調査は、上記の村誌記載事項を基に、木沢村の板碑の所在の確認と実測調査を目的として行った。所在の確認では、台風の影響での交通遮断などでかなり難航した。調査の結果、中沢谷地区で板碑が1基亡失していたことが判明し、新たに阿津江地区で板碑1基を発見した。中沢谷の板碑には応永三年の紀年銘があり、少なくとも1396年にはこの地域に集落を形成し、板碑を造立したことがわかる。また、板碑の実測・拓

本・写真撮影をおこなったが、保存状況も良好であった。今回は、この中沢谷板碑を中心に9基の板碑の実測を行った。

2. 木沢村における板碑の調査

1) 調査の経過

期 日 2004年10月1日(金)、2日(土)、3日(日)
 調 査 員 三宅良明、小林勝美、中川尚、福原智子、
 柏野寿一、岡山真知子
 調査協力 木沢村教育委員会
 内 容 木沢村所在の板碑の所在確認と、9基の
 板碑の実測調査を実施した。

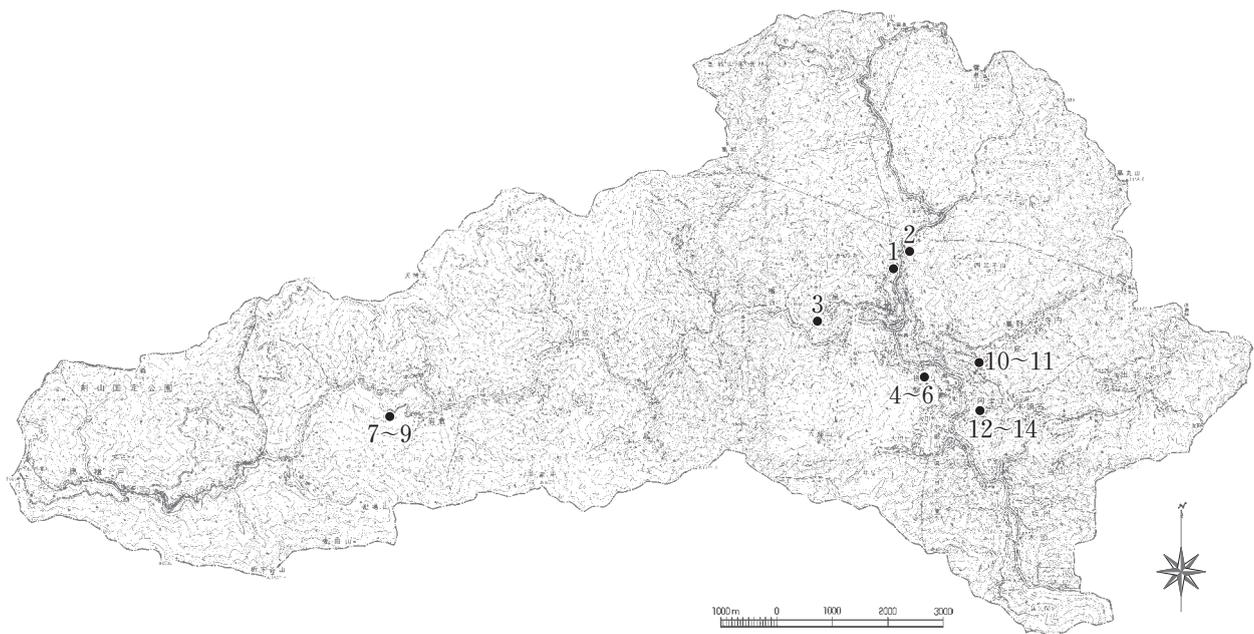


図1 木沢村における板碑の所在

* 1 徳島県立城ノ内高等学校教諭 * 2 阿波学会会長 * 3 徳島市教育委員会社会教育課

表1 木沢村板碑一覧

No.	所在地	種子	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	紀年銘	備考
1	木沢村中沢谷80番地	五輪塔線刻	62.0	24.5	2.5	応永三年	
2	木沢村中沢谷80番地						亡失
3	木沢村小島 大上家墓地		68.0	26.0			交通事情で調査不能
4	木沢村掛盤三田 藤居家	五大種子?	67.0	22.0			交通事情で調査不能
5	木沢村掛盤三田 藤居家	五大種子?	52.0	19.0			交通事情で調査不能
6	木沢村掛盤三田 福島家墓地		57.0	19.0			交通事情で調査不能
7	岩倉地藏本 東山一男の祠内	阿弥陀三尊種子	51.5	15.0	3.0		
8	岩倉地藏本 東山一男の祠内	阿弥陀三尊種子	37 + a	22.5	3.0		二つに割れている
9	岩倉地藏本 東山一男の祠内	阿弥陀三尊種子	15.5 + a	12.2	2.0		上半の1/4
10	木沢村阿津江字黒瀧山5番地 黒瀧寺山門内	阿弥陀三尊種子	51.0	18.0	2.5		二線枠線なし
11	木沢村阿津江字黒瀧山5番地 黒瀧寺山門内	五大種子	81.7	20.5	3.3		二線枠線あり
12	木沢村阿津江字中尾 岸野伝	阿弥陀三尊種子	73.2	26.1	4.2		
13	木沢村阿津江字中尾 岸野伝	阿弥陀三尊種子	69.5	18.5	2.5		二線枠線あり
14	木沢村阿津江字中尾谷内家祠	阿弥陀三尊種子	76.0	25.0	4.0		二線枠線あり

2) 板碑の分布

木沢村内の板碑は、木沢村誌（前掲書）に12基と報告があり、今回の調査結果から13基の板碑が存在していたと考えられる。石材はすべて結晶片岩である。今回確認できたのは中沢谷2基（1基亡失）、岩倉地藏本東山一男祠内3基、黒瀧寺2基、阿津江中尾の岸野家で2基、谷内家の祠内1基の9基の実測調査を実施した。残念ながら藤居家と小島家は交通遮断のため調査できなかった。これらを含めると合計13基となる。なお、所在地については図1、内容については表1に示した。分布（図1）をみると、阿津江地区・沢谷地区・岩倉地区の3地区に集中していることがわかる。

阿津江地区では、黒瀧寺に2基、阿津江に3基の計5基が分布する。この地区は、黒瀧寺から出羽を越えて上勝町とつながる。阿津江から沢谷を経由すると神山町ともつながるとい交通の要衝にあたる。また、今回は調査できなかったが、坂州木頭川を挟んで対岸には掛盤に藤居家に2基の板碑が存在する。

沢谷地区では、旧地藏堂に2基の板碑があったが、今回の調査で1基が亡失していることがわかった。現存している板碑は応永3（1396）年銘のある板碑である。この沢谷地区は、雲早山を経由して神山町左右谷地区とつながる。

岩倉地区には3基の板碑がある。岩倉地区からは日奈田峠を経由して木屋平村川上へと抜けることが

できる。川上には板碑が5基分布している。

また、いずれの板碑も石材が結晶片岩であり、この地域には産出しない石材である。材質や立地条件からも、結晶片岩が広範に分布し、板碑が多く造立している神山町や木屋平村から運び込まれた可能性が考えられる。

2. 各板碑

1) 沢谷五輪塔線刻板碑

沢谷の峠道にある地藏堂内に安置されている板碑である。中央部に五輪塔を線刻している。長さ62.0cm・幅24.5cm・厚さ2.5cmを測る中形の板碑である。下部に「甲金 応永三年 十月日」とある。

2) 黒瀧寺の板碑

黒瀧寺山門をくぐった墓地内に2基の板碑が立てられている。1基は、阿弥陀三尊種子板碑で、長さ51.0cm・幅18.0cm・厚さ2.5cmを測る中形の板碑である。もう1基は、五大種子板碑で、長さ81.7cm・幅20.5cm・厚さ3.5cmを測る中形の板碑である。木沢村内の板碑では一番大きい。

3) 阿津江の板碑

阿津江地区の岸野伝さんの祠前に立てられている板碑が2基と今回発見した谷内さんの祠内に安置されていた板碑1基である。いずれも結晶片岩製の阿弥陀三尊板碑である。仮に前から1～3とする。

1は、長さ73.2cm・幅26.1cm・厚さ4.2cmを測る。2は、長さ69.5cm・幅18.5cm・厚さ2.5cmを測る。3は、2つに割れていたが、1個体であることがわかった。その結果、長さ76.0cm・幅25.0cm・厚さ4.0cmを測る。

4) 岩倉の板碑

岩倉の地藏本、東山一男さんの祠内に安置されていた。3基の板碑が確認できた。いずれも結晶片岩

製の阿弥陀三尊板碑である。仮に前から1～3とする。1は、長さ51.5cm・幅15.0cm・厚さ3.0cmを測る。2は、2つに割れており、下半部を欠く。現状で長さ37.0cm・幅22.5cm・厚さ3.0cmを測る。おそらく長さ60cm以上はあると考えられる。3は、上部のさらに半分しかない。現状で長さ15.5cm・幅12.2cm・厚さ2.0cmを測る。

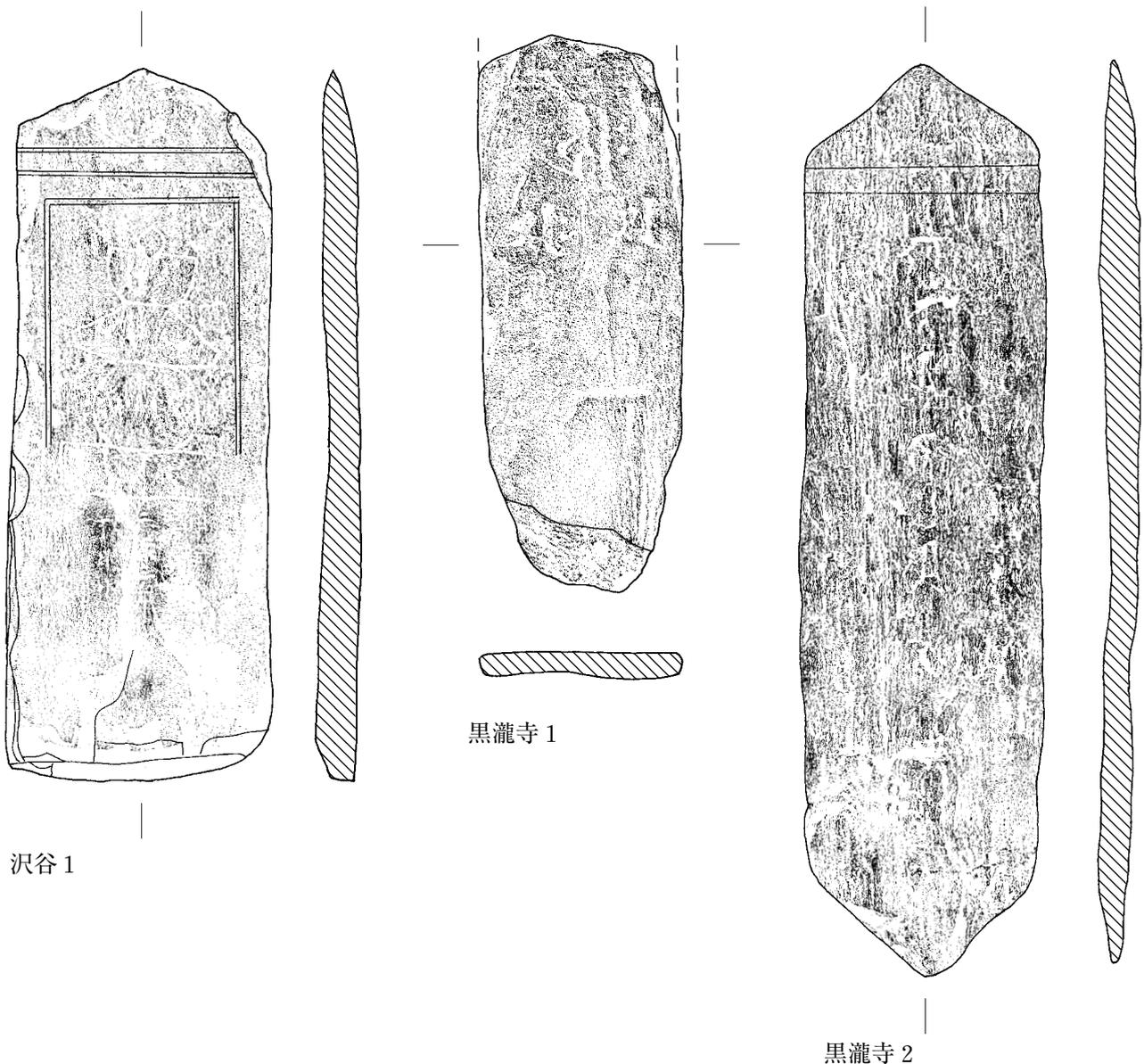


図2 木沢村の板碑実測図 No.1

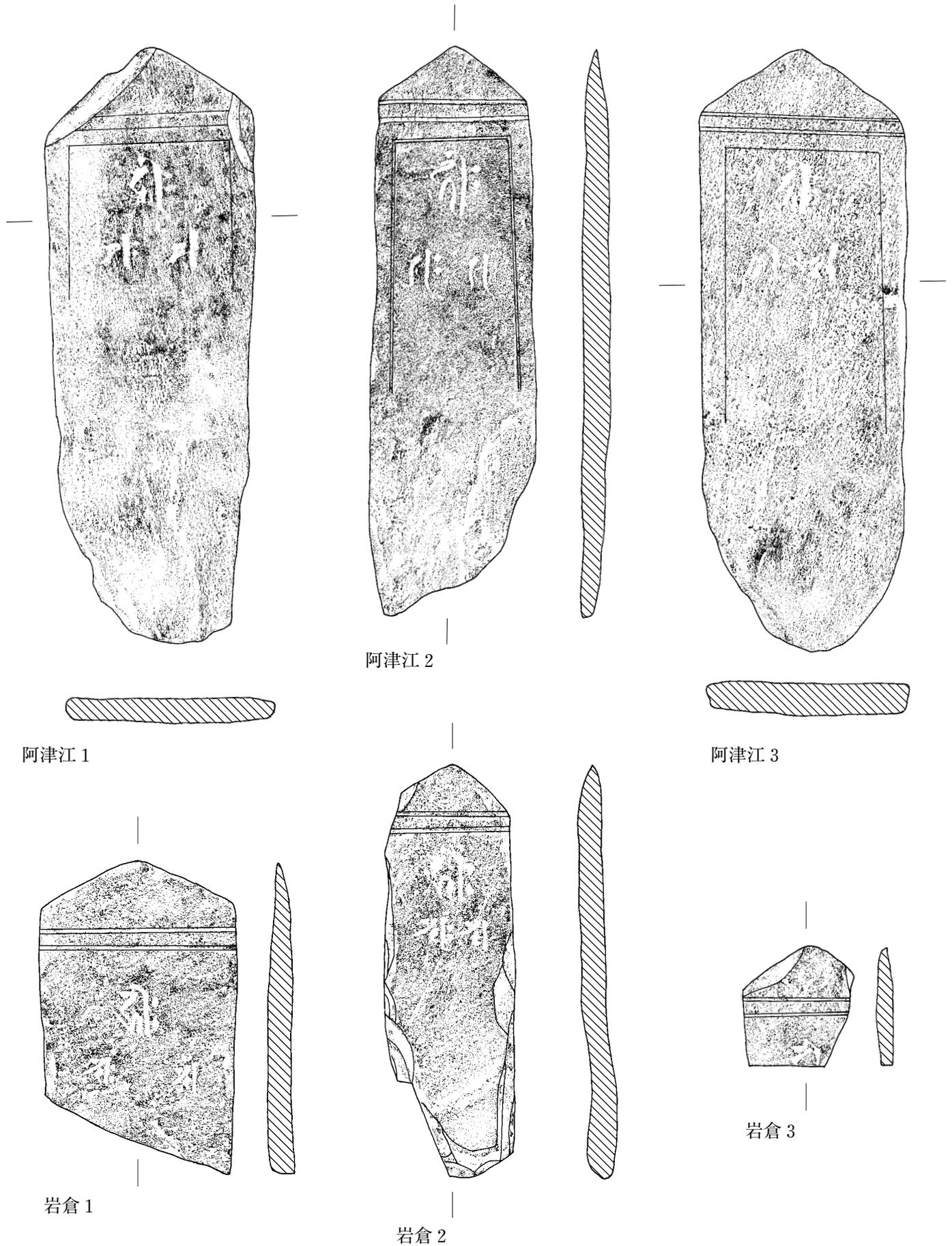


図3 木沢村の板碑実測図 No.2

5) 木沢村の板碑の特徴

木沢村の板碑の特徴をみってみる。まず、大きさであるが、長さ51.0cm～81.7cm、幅15.0cm～26.1cm、厚さ2.5cm～4.0cmである。長さとの幅の比をグラフに表すと、図4となる。

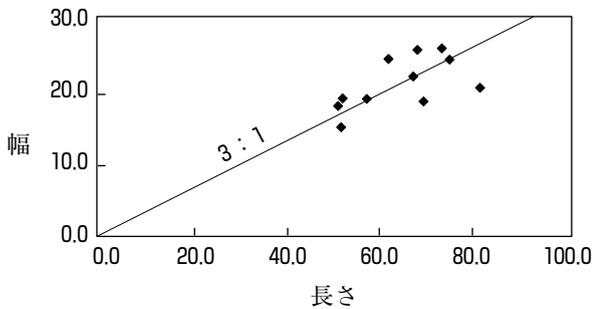


図4 木沢村の板碑の大きさ

図4から、ほとんどが中形の大きさで、長さ：幅が3：1のライン上にあることが分かる(図4)。

次に、標識であるが、五大種子が4基、阿弥陀三尊種子が7基、不明3基である。これを図化したのが図5である。また、紀年銘板碑は1基のみで、応永3(1396)年である。

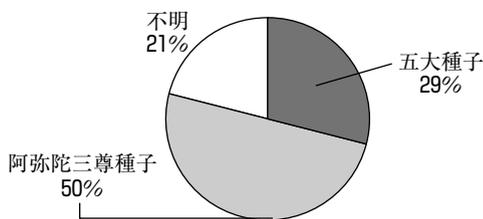


図5 木沢村の板碑の種子割合

以上から、木沢村の板碑は阿波板碑としては一般的なあり方を示していると言える。ただし、この那賀川の奥深く、岩倉の地まで板碑が造立されたことが特色である。石材が緑色片岩という在地で産出しない石材が使われており、かなりの遠距離を板碑が運ばれたことを物語っている。おなじ那賀奥でも木沢村には岩倉まで流入しているのと対照的に、木頭村には現在までに建立されたという記録がない。

3. まとめにかえて

平成13年度に相生町の板碑の調査を行い、今回は木沢村の板碑の調査を行った。そこで、両調査の結果をふまえて、3月に合併して那賀町となる丹生谷

5町村の状況をまとめてみたい。

現在までにわかっているところで、旧町村名を使うと、鶯敷町7基、相生町30基、上那賀町8基、木沢村13基、木頭村0基である(図7)。那賀川沿いと山間部に多く立地していることがわかる。これらは、石材が存在しないため、他地区から運び込まれたものと考えざるをえない。

また、種子で見ると、阿弥陀三尊種子が最も多く38基、次いで五輪塔線刻が7基、五大種子が3基、地藏種子が1基、阿弥陀立像が1基である。地藏種子は徳島県内でも珍しくあまり検出されておらず、3基である。図化すると、図6のとおりとなる。木沢村と比較すると、バラエティに富むことが指摘できる。

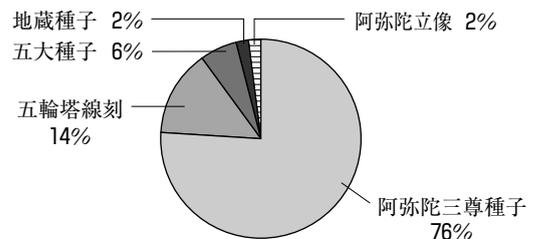


図6 那賀町内の板碑の種子割合

この中で、紀年銘をもつのが4基ある。永徳年間、永徳2(1384)年、明德4(1393)年、応永3(1396)年である。最古が永徳2年の上那賀町藤倉神社の板碑でもう1基永徳年間の板碑がある。上那賀町荒谷には阿弥陀立像板碑がある。次いで、鶯敷町中山の明德4年の板碑で、地藏種子である。これらが那賀町の代表的板碑といえよう。

石材は、ほとんどが片岩系の板碑で、他地域からの搬入品であるが、砂岩製板碑が6基ある。うち4基が相生町谷内、1基が延野、1基は上那賀町藤倉神社である。

図7にも示したが、那賀町の板碑は勝浦越え、神山越え、木屋平越えのルートを通して板碑がもたらされたと考えられる。これらのルートに存在している板碑の内容を丹念に調査していけば、中世の流通を検証することが可能であり、今後、努力したい。

※文中、斜体としたのは新設の那賀町の意味である。

文献

木沢村誌編集委員会『木沢村誌』木沢村、1976年。

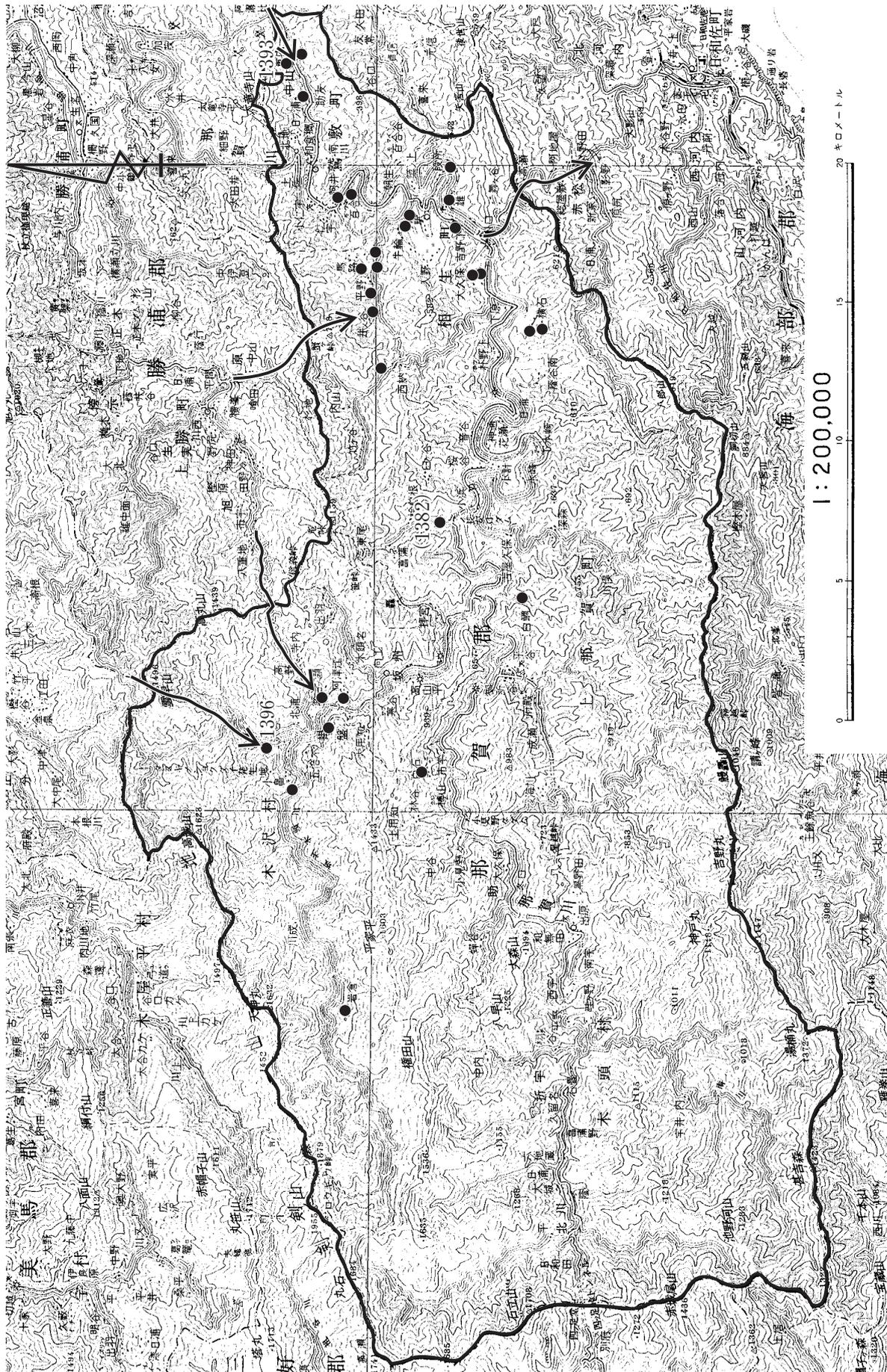


図7 那賀町における板碑の分布 (20万分の1「剣山」を基図に作成) (●は板碑の分布地)